

## CONTENTS

### ① 新年ご挨拶

### ② MICニュース

おかげ様で10周年  
MIC中国より  
地域別認証登録顧客分布図

### ③ 新連載よみもの

MICリレーエッセイ  
連載読み物「環境とISO14001」

### ④ 審査の現場から

MI初の業種認証紹介  
(瀬田アーバンホテル)  
規格紹介

### ⑤ お客様からのお便り

ISO9001認証にあたり  
(窪田建設株式会社)  
ISO14001維持審査を終えて  
(富山軽粗材株式会社)

### ⑥ 研修コースのご案内

ちょっといっぱく  
コースのご紹介/受講生からのお便り

## 皆様 新年あけましておめでとうございます

昨年中は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

この機会をお借りして弊社全従業員、検査員、審査員の皆様、アライアンスの皆様、そして全てのお客様にこれまでの弊社へのご支援ご協力に心より感謝申し上げますと共に、今現在も Moody Group Japan を大きく創造して頂いていることに対して御礼申し上げます。

私たち Moody Group Japan は、現在においても将来においても基本姿勢を変えることなく、社員全員が主体性を発揮し、おごり高ぶることなく、模範となつて、誠実に相互依存し合い、格式ばらず、ありのままの自分で、顧客本位の継続的改善を促す触媒としての役割を全うし、お客様の成功に尽くします。

さて、私たちの2003年度を振り返りますと、Moody International の検査部門においては世界最大級天然ガス田のサハリン I (ExxonMobil 社) およびサハリン II (サハリンエナジー社/Shell) の Pipeline Project を連続して受注し、さらに今年度はスタットオイル社のノルウエー-イギリスの海底を結ぶ日本への発注量としては過去最大級の海底 Pipeline Project 並びにアブダビのドルフィンエネルギー社向けの40万トンの Pipeline Project の応札の準備をしております。また昨年の暮れには念願の環境マネジメントシステムの ISO14001/労働安全衛生 OHSAS18001の認証を同時に取得し、これにより既に8年間認証継続している品質マネジメントシステム ISO9001を含め、3つのマネジメントシステムを取り入れることができました。

Moody International Certification の審査においては EMS(環境マネジメントシステム)のスキームマネジメントを設置することができ、QMS(品質マネジメントシステム)に引き続き新たに日本国内で環境の審査並びに認定書発行までできるようになりました。また、昨年8月に実施された審査機関格付けランキングにおいて総合ランキングで2位、顧客満足度、推奨度、費用対効果、指摘能力などの分野で1位に格付けされました。今年度は更に総合ランキングでも1位を目指し、年間顧客契約数を1200社、合計で3,000社を目標にします。しかし、いずれの部門においてもパレートの法則の通り約20%の競合会社が全体の約80%のシェアを独占しております。更にその20%の中の20%、つまり全体の4%の企業だけが強力なメジャーとして君臨しています。私たちもその4%の中に入らないと、どの分野においてももはや生き残ることはできないと考えます。

しかし、私たちには別の目的地があります。私は国際政治学者でも経済学者でもジャーナリストでもないでこれから世の中がどうなり、世界の経済がどうなるか専門的意見を述べる立場ではありません。現在の私たちを取り巻く事業環境は常に厳しく、全ての物事が目まぐるしく複雑に絡み合っただけで突風のように進行しているかのように思います。今日の常識が明日の非常識にさえなるかもしれない、まさに激流のなかの舵取りです。だからこそ、私たちに最も必要なのは一人一人の心構えと動機、更に個人個人のその場その場での迅速な意思決定だと思います。

そして、私たちがその業界の模範を示し Moody で検査してもらったこと、Moody で審査してもらったこと、Moody で働くこと、Moody のこんなすばらしいスタッフを持ったこと、これが誇りに思うとお互いに言えるよう、言われるようにすることがこの Moody Group Japan の最終目的地で私に課せられた使命と心えております。

本年も Moody Group Japan を新たな位相に大きく創造して頂けますよう皆様にここにお願いする次第です。更に今後も皆様によりご満足いただけるサービスを提供できますよう一層の努力を重ねて参る所存であります。変わらぬお引き立ての程何卒よろしくお便り申し上げますと共によろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

最後に皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ新年のご挨拶とします。

代表取締役 坂井 喜好



発行

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社  
大阪事務所

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14  
住友生命新大阪北ビル13階

TEL: (06) 6150-0571 FAX: (06) 6150-0575

[http://www.moodygroup.co.jp/mic\\_index.htm](http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm)



## おかげ様で10周年

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社の日本法人誕生から今年で10周年目を迎えることができました。これまでの皆様方からのご高配に社員一同心より感謝申し上げます。

MICの日本での歴史は、10年を迎えましたが、ムーディー・インターナショナルグループの歴史は、約100年、世界最大の多国籍技術サービス企業の一つとして、世界50以上の国で業務を展開しています。

ムーディー・グループは、1911年に米国で設立されたMoody Engineeringからその歴史をスタートさせました。それから100年近くにわたり、世界各地で、認証・検査/納期管理・調達・コンサルタント・技術指導/評価及び派遣サービスを行っております。日本の検査業務部門は、グループの海外拠点第一号として50年以上にわたって業務を展開しております。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーションは、歴史あるムーディーグループの一つで、複数の国際認定機関から認定を受けた審査機関です。これまで世界各国で発行したISO認定証は、約10,000通近くにのぼり、世界の認定機関のトップテンにも挙げられております。また、審査員研修機関としても、各国でコースの提供も行い、好評を頂いております。

これからまた次の10年、20年と、皆様のマネージメントシステムの理想的なパートナーとして皆様とともに歩んで参りたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 中国食品安全衛生発展への主導的役割を担う

MICは、中国北京と上海において、食品安全衛生の整備・発展に対する協力・サポートを目的に、地方当局との共同プロジェクトを開始しました。世界的に衛生・品質管理への関心が高まり、日本でも、食品安全業でのHACCP(危害分析重要管理点監視方式)システムの導入が年々増加しています。中国でも、2008年に北京でのオリンピック、2010年に上海での世界博覧会を控え、食品サービス業に対する安全衛生管理の必要性、要求事項が増加しています。

MICは、今年9月に、北京の政府機関と協力プロジェクトを締結し、既に食品安全担当の政府高官、及びオリンピック参加主要食品業者を対象とした研修事業をスタート、オリンピックまでの4年間で、4,000人以上の管理者養成を予定しています。また、研修事業だけでなく、審査認定機関としての資格も与えられ、中国における食品安全衛生に大きく貢献すべく、現在業務を展開しております。

日本でも、MICは、9001・14001に加え、HACCPの審査登録機関として業務を展開しております。ご興味、ご質問等ございましたら、弊社までお気軽にお問合せ下さい。

### MICの地域別認証登録顧客分布

地域	顧客数
北海道	33
東北	147
関東	581
北陸	328
西日本	384
沖縄	33
全国	1506


(2003年11月末現在)

<備考> 2003年11月末現在ご契約頂いている顧客数は、約1900社です。ありがとうございます。



## MICリレーエッセイ

今号より弊社の各地方拠点の紹介をさせていただきます。初回は、北海道地区江別からのエッセイをお届け致します。これから南下して行く予定ですので、各地方の特色などお楽しみください。次号は、東北地区仙台よりお届けします。



私が住む江別市は札幌市から車で30分ほど走ると広がる長閑な田園地帯です。ご当地自慢はレンガの街、市民やきもの市、数年後に国内最大の獣医学部付属病院施設を持つ酪農学園大学、近代酪農の祖である町村農場などです。

北海道経済はお世辞にもよい状況ではありませんが、道州制モデル特区にて政治経済的自立を標榜しています。自立の究極はインフラ確保と納税力のある企業をいくつ育成するかにかかっていると思われませんが、私も地元元気企業出現のお役立ちに一役適えば幸いです。

From 北海道地区担当  
細谷 賢治

## 連載「環境とISO14001」

企業の社会的責任が厳しく問われる時代になり、環境への配慮は企業にとって益々重要な課題となってきました。今号より、益々関心が高まっている環境 ISO に関する連載をお届け致します。

## 第1回 「地球環境とISO14001」

MIC 環境審査部長 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

産業革命以来、人類は大きな発展をとげ、繁栄を築いてきました。先進国の人々は地球上の多くの資源を消費し、その恩恵を受けて豊かさを享受しております。しかし、今日に至る過程は必ずしも良いことばかりではありません。その一つが、水俣病、イタイイタイ病、四日市の大気汚染訴訟に代表される公害問題です。これらの問題は40年以上を経て、さまざまな法規制により解決に進んでおりますが、今なお、シックハウスや土壤汚染など新たな問題が発生しております。

それらは、被害が局地的なものにとどまらず、河川、湖沼、そして海洋汚染となり食物連鎖を通して北極の自然にも及んでいること、地球規模の汚染となって、生態系を破壊しており、いわば地球規模の破壊が起きていることが認識されるようになりました。さらに、オゾン層の破壊や地球温暖化、酸性雨、砂漠化に象徴される現象は、人類の存続の可否を問う世界の焦眉の問題、「地球環境問題」として捉えられるようになりました。

地球環境問題は一地方、一国の問題ではなく、国境を越えて地球規模に広がっている問題であるとともに、私たち自身の営みに原因があるという厄介な問題です。それゆえ、先進国に住む人も、発展途上国に住む人も、かけがえのない地球を次世代に継承することに、政府も、事業者も、市民もそれぞれの立場で責務を負っているのです。1992年リオデジャネイロで各国の首脳が集まり、地球規模の破壊を食い止め、持続可能な開発を進めるために、「アジェンダ21」と称される宣言が採択されました。

ISO14001はこの「持続可能な開発」を含む環境問題に対する人々の関心の高まりを背景として、主として事業者向けに作成された規格です。「アジェンダ21」については環境マネジメントシステムの原則及びその構築支援のガイドラインとして作成されたISO14004の付属書に詳しく解説されております。

ISO14001の序文には「組織の環境上及び経済上の目標達成を支援するために云々」と記載されております。いわば事業経営の収益と環境保全活動は同方向のベクトルを目指すものであることを意味しております。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーションは認証審査、継続審査を経てお互いに高めあう触媒となることを社の理念としております。それゆえ、上記のISOシリーズの理念を大切に、いわば「経営に役立つISO9001,ISO14001」を視野に置いた審査を心がけております。

次回は「環境経営とISO14001」についてお話し致します。

2003年11月滋賀県大津市の瀬田アーバンホテル様、ISO14001審査機関変更審査にお伺いしました。同ホテルは滋賀県、琵琶湖のほとりにあり、3年前、他に先駆けて、ISO14001を某審査機関で取得されましたが、ご縁があり、この度、MICを選んで頂きました。

まず、同ホテル様のホームページが非常に興味深いものでした。以下の、「環境への取り組み」などが掲載されています。

- ・ISO14001に取り組んだ理由
- ・導入後の変化
- ・環境方針(英文も)
- ・一般向け環境マネジメントプログラムと実績など

審査に伺う前に、ほとんど、わかってしまいそうです。

当日の名刺交換の際には、まず、名刺の材質が再生ペットボトルであることに驚かされました。ロビーの水槽では、琵琶湖の魚が泳いでいます。全客室に「環境サービスマニュアル」と「地球のおくすり」という啓蒙小冊子が置かれています。

ISO14001を取得している、ある大手チェーンホテルでは、部屋に歯ブラシセットなどが設置されていません。「これって、環境？コスト削減？」「環境のために品質ダウン？」

それと比べて、同ホテルでは「宿泊されるお客様が、環境へ配慮しよう」という、気持ちになるよう、間接的にアプローチをされています。さらに、同ホテルの管理責任者である片岡専務様は、MICのISO14001とISO9001両方の審査員コースを修了され、ISO9001もマスターされました。同ホテルホームページ投稿掲示板におけるクレーム対応などを読んでいると、「読み終わる頃には、ファンになっている」というような内容です。

今回の審査では、改善の機会が5件提案されましたが、ここからが驚きです。審査の翌日に長々とした社内通達メールが出され、求められていませんが、審査員にも転送されてきました。この内容が、改善の機会それぞれに、ISO9001を超えるほどの是正処置報告で、全員に伝えられています。ここまでの、対応をされるお客様は、私にとって始めてでした。

京都付近にお越しの際には、同ホテルに宿泊して頂きますと、MIC割引があるかもしれませんよ。

<http://www.seta-urban.co.jp/>



皆様ご存知のように、ISO9001は要求事項ですが、ISO9004は改善の指針です。大きな特徴として、ISO9001は「～しなければならない」ですが、ISO9004は「～するとよい」になっており、より高い目標が書かれています。また、ISO9001は8.5.3までですが、ISO9004は8.5.4まであります。今回はISO9004の8.5.4の前半をご紹介します。より高いパフォーマンス改善の参考にして頂ければと思います。

#### 8.5.4 組織の継続的改善

管理者は、組織の将来及び利害関係者の満足を確実なものにするのを援助するために、プロセス、活動及び製品のパフォーマンスを改善する機会を積極的に追求することに、人々を参画させる文化を創出するとよい。

トップマネジメントは、人々を参画させるために、人々に権限を委譲し、人々が組織のパフォーマンスを改善できる機会を特定するための権限を得て、その責任を受け入れる環境を創出するとよい。これは、次の事項のような活動によって達成が可能である。

- ・人々、プロジェクト及び組織に対する目標の設定
- ・競合者のパフォーマンス及びベストプラクティスに対するベンチマーキング
- ・改善達成に対する表彰と報奨
- ・管理者のタイムリーな反応を含んだ提案制度

トップマネジメントは、改善活動のための仕組みを提供するために、実現及び支援のプロセス、並びに活動に適用できる継続的改善のためのプロセスを定めて、実施するとよい。改善プロセスの有効性と効率とを確実にするために、実現及び支援のプロセスについて次の事項のような点を考慮するとよい。

- ・有効性(例えば、要求事項を満足するアウトプット)
- ・効率(例えば、単体量辺りの資源で、時間及び金銭に換算したもの)
- ・外部からの影響(例えば、法令・規制要求事項)
- ・潜在的な弱点(例えば、実現能力及び整合性の欠如)
- ・より良い方法を採用する機会
- ・計画された及び計画されていない変更の管理
- ・計画された便益の測定

ISO9004





# お客さまからのお便り



## ISO9001認証にあたり

窪田建設株式会社 (ISO9001:2000認証登録)  
品質システム副管理責任者 福本 智之



弊社は、北海道、道東北部のオホーツク海に面した網走市で昭和19年創業の建設業(土木工事)を営んでいます。網走市は、人口約41,800人の農・水産・建設業中心のまちです。海・山・湖と自然に恵まれ、また湾曲に伸びた知床半島の山々をオホーツク海の彼方に望むことができる景観豊かな素晴らしい環境を有す観光地であります。網走＝「監獄」というイメージが強いなか、ここ数年流氷を見所とした冬期観光が人気となり、流氷観光砕氷船は連日満員となっています。海を覆った流氷原では漁船を進めることができず、立往生してしまうので

元来、冬に船の往来はないものとされてきましたが、この砕氷船の登場により網走港は1日10便が出港する観光スポットと変化し、網走は「流氷のまち」として栄えています。

弊社は、平成13年2月7日、ISO9002:1994を認証取得、平成14年8月21日、ISO9001:2000への移行審査認証取得を経て、現在ISOの社内運用は3年を経過しました。

弊社がISO9002の認証取得を目指したのは、社会情勢の動向によりISO認証取得が「入札参加条件」の一つとなる事が大きなきっかけでした。また、当時網走市の建設業界でISO認証取得の動向が始まった時期で、網走市内で3番以内にISO認証取得することを目標に社内運用を開始し、目標どおり網走市内で3番目に認証取得することができました。

認証機関の選定にあたり、弊社は オリジナリティー を好む傾向が強く、網走支庁管内において他社があまり認証取得

していない機関の中から、また、ロゴマークのデザインを理由に【MOODY】様に決定した次第です。

ISO9002認証取得当時の話題としては、ISO認証が入札参加条件となった「公募型入札」に応募した時の事で、担当者から「【MOODY】ってイギリスなの、日本の審査機関でなくて、いいの!!」と逆に聞かれる状況だった事を笑い話として思い出します。現在に至っては、「弊社のISO認証取得機関は【MOODY】です。」とアピールする事に優越感を感じています。

弊社のISO運用状況についてですが、品質方針は、「我々は発注者の信頼と満足が得られる品質を提供する」を究極の品質方針とし、部門品質目標、個別品質目標を掲げ、「方針展開プロセス」に取り組んでいます。

運用にあたって、従来の業務とのギャップはなく、ISOを取り入れた事によるメリットは「文書・記録」の帳票が統一様式で提出され、文書管理をしてきた担当者としては、見やすく、管理が楽になった事が一番大きいメリットであると実感しています。

弊社はISO認証前も、ISO認証後も、変わらず発注者の満足と信頼を得られる製品(公共工事)を提供し続け、これからも継続し、社長・品質管理責任者を筆頭に社員全員が一丸となり弊社に見合うISOを構築し続け、顧客(発注者)からの高評価を目指していきたいと考えております。

### < ISO9001認証によるメリット >

統一帳票による確認・承認体制が確実に変わった。  
各担当者の責任及び権限の所在が確実に変わった。  
分析活動が今まで以上に有効的に活用されるようになった。

## ISO14001の維持審査を終えて

富山軽粗材株式会社 (ISO14001認証登録)  
代表取締役 赤堀 宗平



拝啓 貴社益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のお引き立てを賜り誠に有難うございます。

当社は平成13年9月にISO14001の認証を取得し、今年で満2年経過いたしました。お陰さまで先般2回目の維持審査を受け認証継続の推奨を頂きました。

この1年間は初年度に引き続き、各エネルギーなどの使用量節減や廃棄物の実態把握と資源の無駄な使用を削減することを最重点に活動を進めて参りました。この結果環境面でも、金銭面でも大きな成果を挙げる事が出来ました。

活動内容の主なものとしては、機器の稼働率を高めると同時に製造ロス率の改善を行い生産効率を向上させることによる電力の節減。水についてはカプラの取り付け、ダイスの自然冷却による節減。ダイス焼却手順の標準化によるプロパン

ガスの節減。ブラシ使用手順の標準化による産業廃棄物の減量などです。

また製品のカット時に発生する切り粉は、従来産業廃棄物として廃棄処分をしておりましたが、透水性ブロックとして再利用することが出来環境面の改善を図りました。

私たちを取り巻く地球環境への負荷を最小限にする要請は日増しに大きくなると思われます。私どもの活動はまだまだ充分とはいえませんが、環境目標に向かって地道な活動を続けて参りたいと思っております。

引き続きご愛顧のほどお願い申し上げますとともに、御社様の益々のご繁栄をご祈念申し上げます。

敬具





今回もISOについてです。今回は名前の由来についてお話ししましたが、今回はその歴史について少しお話しさせていただきます。規格には様々なものがありますが、国際規格の歴史は電気技術分野から始まり、ISOは機械工学分野に重点を置いたISA(万国規格統一協会)から誕生しました。ISAは1926年に設立後、第2次戦中に活動を停止、1944年に設立されたUNSCCが臨時的に業務を引継ぎましたが、1946年、25カ国が参加したロンドンでの会議で、工業規格の国際的調整・統一化を促進するための組織の必要性が討議され、翌1947年2月23日、正式に発足しました。それから約50年、現在加盟国は140カ国以上にのぼります。約30年前には、このISOの設立を祝う「世界標準デー」が定められ、現在毎年10月14日に、国際規格の重要性認知の向上とその役割周知の促進を目指しています。  
ちなみに132年前(明治5年)の10月14日、日本では初の鉄道が開通し、その記念として平成6年よりこの日が「鉄道の日」と定められています。

## 研修コースのご案内

セミナーコース

**【コース名】** ● ISO9001:2000  
 ・内部監査員コース (2日間)  
 ・IRCA認定 IATCA基準審査員研修コース (5日間)

● ISO14001  
 ・内部監査員コース (2日間)  
 ・IEMA認定 審査員研修コース (5日間)

**【内 容】** 経験豊富な講師が基礎から実践まで徹底した指導を行い、内部監査員/審査員になるための知識・技量ガイドを提供します。

**【開催地】** 東京・大阪・福岡  
 仙台・北海道(内部監査員のみ)

給付対象講座

**【コース名】** ● ISO9001:2000  
 ・主任審査員コース (6日間)

● ISO14001  
 ・主任審査員コース (6日間)

**【内 容】** レギュラーコースに1日プラスした厚生労働省の教育訓練給付対象講座です。  
 受給資格者には、最大40%(上限20万円)が支給されます。  
支給要件、申請手続きについての詳細は最寄りのハローワークにお問合せ下さい。

**【開催地】** 東京・大阪

### ～ 受講生からのお便り ～

#### 審査員研修を受講して

品質(2002年11月)・環境審査員コース(2003年4月)受講  
 ビッグアップル・グローバル・エージェンシー(旅行業第3-543号) TEL:093-382-5545  
 北九州市 立川 鐵哉

私とMICとの出会いは、昨年11月のEMSと今年4月のQMS 審査員研修コースで始まりました。これらコースは、私にとって初めての分野への挑みともなった訳で、緊張の連続でしたが、MICスタッフとの交流で家庭的な雰囲気の中で受講できたことは、何よりも心強く思いました。5日間の学習の中で講師は「システム構築はシンプルで有効・効果的な連続性」が重要であることを特に説かれていました。この事は後ほど日々のセールスの中で訪問した企業で証明される事になりました。すなわち、その企業はシステム構築の際、あまりにも細部に渡りシステムを構築したことにより、スムーズな運営に支障をきたす結果となっていたのです。このとき私は、やはり、MIC 審査員研修コースを大阪まで出かけて受講した甲斐があったと思えました。

研修コースの経験を生かして本業の旅行業においても、皆様にすばらしいご旅行の提供に努めたいと思います。ご旅行をご検討の際は、ぜひ、当社までお問合わせ下さい。

#### お知らせ

今年、東京・大阪事務所以外でも、  
 無料セミナーを開催する予定です。  
**無料セミナー開催予定地**  
 北海道・仙台 群馬 富山 愛媛  
 広島 福岡  
 詳細はお問合せ下さい。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社

<http://www.moodygroup.co.jp>

東京本社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-4-2 日本橋Nビル 4F

TEL:(03)3669-7408 FAX:(03)3669-7410

E-mail: mi-certification@moodygroup.co.jp

大阪事務所

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14住友生命新大阪北ビル13階

TEL:(06)6150-0571 FAX:(06)6150-0575

E-mail: mic-osaka@moodygroup.co.jp